

かけはし



「ニュージーランド・ポイエクササイズ」は、講座で使うポイ（飾りひもに布玉が付いた用具）を手づくりしました。そのポイを手に、音楽に合わせて回しながらエクササイズをのびました。

Instagram



Facebook



Website



Let's Poi! - 英語で楽しむニュージーランドのポイ -

向山公民館 3月4日

今回のイベントは、参加者が実際にポイを作って遊べる体験型のものでした。休日の開催ということもあり、多くの親子が参加しました。また、英語を使ってコミュニケーションを取っていたことも当イベントの特徴です。会場にはニュージー



ランド出身の国際交流員のアリスさんとイタリア出身のキアラさんも出席し、子供たちと楽しい時間を過ごしました。

ポイとはニュージーランドの伝統的な道具で、遊びや踊りに使われています。現在のポイは中に綿を詰めていますが、昔のマオリは石のポイを回して体力づくりをしていました。ポイの作り方は、紐の部分を毛糸で編み、球の部分をビニール袋で包んだ綿の塊で作ります。子どもたちが一番苦戦していた箇所は三つ編みでした。しかしながら、保護者の方々やスタッフが一緒に

なって手伝うと、やり方を覚えて夢中に編んでいました。

各自のポイが完成したら、皆で音楽に合わせて踊りを踊りました。アリスさんは子どもの頃にポイの練習をしたことがあるので早いテンポの曲を踊れますが、初心者の私たちはゆっくりな童謡で踊りました。上下左右、前周り・後ろ周り、キャッチ&リリースなど、様々なポイの動かし方を学びました。

この国際交流員セミナーは毎回予約が満員になるほど人気です。ポイの作り方や遊び方は、一宮市国際交流協会のYouTubeチャンネルでも見られます。今回のイベントに参加できなかった方や興味を持った方は是非一度動画をご覧ください。と嬉しいです。
(うさみみ)



外国絵本の読み聞かせ

i-ビル 6月4日

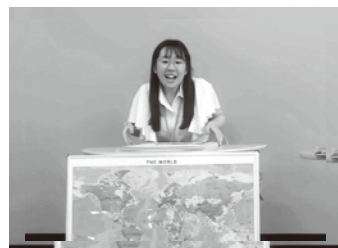
今年度から、コロナの影響により休止していた外国絵本読み聞かせが再開しました。外国絵本読み聞かせとは、国際交流員や、市内在住の外国出身の方が、出身地域や世界各地の外国語絵本を、小学生以下の子どもたちや、その保護者を対象として、読み聞かせるイベントです。再開後の記念すべき第1回目は、国際交流員のアリスさんによる、ニュージーランドの絵本「Hairy Mclary from Donaldson's Dairy」と「Scareface Claw」の読み聞かせでした。

今回は、2冊のニュージーランドの絵本を、それぞれ英語、日本語の順に紙芝居形式で読み聞かせました。まず、物語がすべて英語で読まれると、普段あまり耳にすることのない英語での読み聞かせに、子どもたちは興味津々でした。次に、



今度は同じ物語を日本語で読みました。内容は同じでも、英語と日本語とでは、擬態語や抑揚のつけ方などが違い、英語のときとはまた一味違ったお話に聴こえて、とても新鮮でした。2冊の読み聞かせが終了した後は、アリスさんへの質問の時間でした。子どもたちは、ニュージーランドの文化や生活についてアリスさんに尋ねたり、アリスさんと一緒にニュージーランドの場所を世界地図から探したりするなど、ニュージーランドについて理解を深めました。

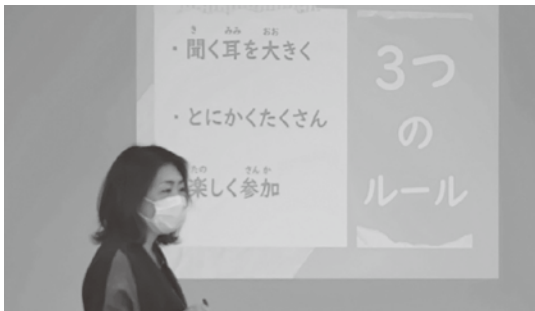
外国絵本の読み聞かせは、今後も第1日曜日の午前で開催される予定です。次はどの国のどのようなお話が読まれるのでしょうか。世界各地の絵本との、新しい出会いがあるかもしれません。
(うっちー)



ファシ138ワークショップイベント 「給食から世界を知るワークショップ」「国際理解体験講座」

神山公民館 2月26日

神山公民館で、国際交流に関するワークショップを行うボランティアグループ「国際理解ファシリテーター ファシ138」による「給食から世界を知るワークショップ」「国際理解体験講座」が開かれました。



小学3年生から小学6年生を対象とした「給食から世界を知るワークショップ」では、3つのグループに分かれた9名の参加者が、ファシリテーターの話をもとに世界の給食について話し合いました。

最初に自己紹介をしたあと、ウォーミングアップとして、グループで協力し思い付いた世界の国々の名前を制限時間以内に来るだけ多く書き出し、出された国名の数で競いました。子どもたちは、世界の様々な地域の国名を挙げていました。

次に、文化の異なる国々の給食風景の写真を見比べて、気づいたことや思ったことなどを話し合い、グループごとに発表しました。そして、ファシリテーターから世界の給食事情についてのクイズや説明があり、子どもたちは、世界の食文化に興味津々でした。

最後に、講座のまとめとして、一人ひとりがこの講座を通して学んだことや、今後の生活に生かしたいことを



書き出してグループごとに発表しました。ほかのグループの意見に触れることで、自分の意見をさらに深めることができました。

参加者のコメントの中には、「世界一周旅行がしてみたい。」「募金による支援がしたい。」という意見がありました。子どもたちが世界の文化や現状に関心を深めてくれた様子を見て、私もうれし

くなりました。

「国際理解体験講座」は、高校生以上の方を対象にしたイベントで、国際交流員のアリスさん、キアラさんも含めて10名の方が参加しました。

まず、参加者とボランティアと一緒にバースデーリングというゲームをおこない、交流を深めました。バースデーリングとは、言葉を使わずジェスチャーのみで誕生日を伝え合い、誕生日順に円形に並ぶゲームです。その後、参加者は3つのグループに分かれ、自己紹介に加え、今年目標を話しました。

次に、ファシリテーターの説明を聞いた参加者は、無人島ゲームを行いました。無人島ゲームとは、「小さなボートで持っていきことができるもの」という条件のもと、無人島に持っていくにはどのようなものが良いか考えるゲームです。まず、一人ひとりが持っていきたいものを10個書き出して書いた付箋をグループで見せ合い、グループの中での10個を選んで発表しました。

それを踏まえて、ファシリテーターから人間が最低限度の生活を営むために必要なものである



BHNs(Basic Human Needs)や、現在の世界の富の分配などの説明があり、参加者は、世界が今置かれている

状況についての理解を深めました。

最後に、今回の講座で参加者が学んだことや感じたことをグループで発表しました。その中には、世界の医療、教育の事情や、食品ロスについて触れているコメントもあり、私も持続可能な発展のために出来ることはないか、考え直すきっかけとなりました。(うっちー)



まわせ!

ポイエクササイズ

～ニュージーランドのポイを楽しもう!～

ポイとはニュージーランドの先住民マオリの伝統的な踊り「Kapa haka」に使う道具です。昔は石や草から作られていて、腕の力や柔軟性を高めるために使われていました。

ニュージーランド出身の国際交流員アリスさんに4回の講座を通してポイの作り方と遊び方を教えてもらいました。毎回、今日のマオリ語を1語覚え、うまくいくよという気持ちを込めたおまじない「Karakia」をみんなで唱えて講座が始まります。

初回は基本的なポイの回し方から。紐を持ってクルクル回すだけのように見えて実際やってみると難しいです。アリスさんは小学生の時に伝統文化として授業で習い、繰り返し体で覚えたそうです。

2回目はポイを作りました。好きな色の毛糸を選び4つ編みにします。綿をボール状にして紐の先にくくりつけ、アリスさんの勧めでポリ袋を被せました。布を被せた一般的なポイより、体にぶつけた時にパンパンと良い音がします。

3回目はいろいろな動きのバリエーションを練習しました。手首をひねるコツもつかめてきて夢中で回すので体がポカポカしてきます。ポイを回すことは、太極拳と同じような健康効果があるという研究結果もあるそうです。

最終回には、歌に合わせてポイを腕や背中、腰

オリナス一宮 1階ホール 5月19日～6月9日



などに当てながら踊れるようになりました。まだまだリズムよくというところまではいきませんでした。が「大好きなマオリ文化に触れられて岡崎から通った甲斐があった。」「体にも脳にもいいエクササイズだった」「講座の続編を開いてほしい」など、前向きな感想が聞かれました。(伏原)



今日のマオリ語

kia ora

こんにちは・ありがとう hello / thank you

今日のマオリ語

Ka pai

よくできました Good

今日のマオリ語

Waiata

歌 Song

今日のマオリ語

Mā te wā

また会いましょう See you again

旅行向けのイタリア語講座

オリナス一宮 5月12日～6月9日



海外旅行へ行ったら、少しでもその国の言葉がわかって、コミュニケーションができれば楽しいですよ。

国際交流協会では、国際交流員のキアラさんを講師に、5月12日(金曜日)から 6月9日(金曜日)までの毎週金曜日、「Gran Tour! 旅行向けのイタリア語講座」を開催しました。30名の方たちが参加され、熱心にイタリア語を学びました。

今回はとにかく旅行で使えるということにポイントを置いて、きちんとした文章ではなくても、必要な単語を並べれば伝わりますよという感じで、とても実践的な講座でした。発音もローマ字の要領で読めばよく、特に巻き舌を意識しなくてもいいそうです。

まずはあいさつから。お店に入った時には「Buongiorno!」とお客さんの方から声をかけるのだそうです。「Ciao!」は、カジュアルな表現で、出会った時だけでなく、別れる時にも使える便利なフレーズなんだとか。

Ciao!



第3回の講座では、レストランの利用の仕方を学びました。グループに分かれて、実際のお店のメニューを見ながら注文の練習をしました。ところが日本の写真が入ったメニューと違い、文字がびっしりと書かれただけのメニューに、参加者は悪戦苦闘。



持ってきていたイタリア語のガイドブックや、スマホの翻訳機能を駆使しながら、解読していました。

最終日の第5回。道を聞いたり、建物の名前を覚えたり、お店でのやりとりなどを学びました。イタリアの子どもたちの学校の様子なども聞いたりして、ますますイタリアの暮らしが身近に感じられました。参加者のみなさんは、新型コロナも落ち着いたということで、そろそろイタリア旅行に行きたいと楽しみにしていられるようで、キアラ先生に積極的に質問をして、イタリアの習慣や様子を聞いていました。



最後にキアラ先生から一人一人に修了証が渡され、参加者からはキアラ先生に温かい拍手が送られました。(ヒノ)



日本語ひろばいちのみや・日本語ひろばびさい

向山公民館・三条つどの里 4月9日

この活動は、地域在住の大人の外国人を対象に日本語や日本の文化を教えるものです。新型コロナウイルスの流行により活動の休止や人数制限を行いながら活動していましたが、制限が緩和され本格的に以前のように活動が戻りつつあります。



「日本語ひろばいちのみや」は毎週日曜日の午前、向山公民館で活動しており4月9日(日)は約

15名程度の外国人(ゲスト)が参加しました。ゲストのニーズや日本語のレベルに合わせて、テキストを使ったり、自由に日常会話をしたりと楽しく日本語を学んでいました。中国やフィリピン、ベトナムから来た新しく参加するゲストの紹介もありました。体温測定や体調確認のアンケートが不要になったり、今後のイベントの紹介もあったりと、活動が活発化しているのを感じました。

「日本語ひろばびさい」は毎週日曜日の午

後、三条つどの里で活動しており、コロナ禍では人数制限のためゲストは2~3名の参加でしたが、3月から人数制限がなくなり参加者は3倍程度に増えてい



ました。体調チェックや消毒は任意となりました。午前中に「日本語ひろばいちのみや」、午後から「日本語ひろばびさい」と、1日に両方に参加しているゲストもあり、意欲的に日本語の上達のために頑張っている姿が見られました。

私もボランティアとして参加し、文化の違いを踏まえて楽しく会話をすることや話題の広げ方、会話の中での質問の仕方など、心構えや教え方のテクニックなど勉強になることが沢山ありました。

コロナによる制限がなくなることで活動に参加しやすくなっています。体験も可能なのでボランティア興味のある方は問い合わせをしてみてください。(いけちゃん)

イタリア国際交流の授業

開明小学校 5月23日

一宮市には、ニュージーランド出身のアリスさんとイタリア出身のキアラさんの二人の国際交流員がいます。彼女たちは、市内の小学校を訪問し、それぞれの国を紹介する国際理解の授業を行なっています。開明小学校で6年生向けにキアラさんが行ったイタリアの小学校と世界遺産を紹介する授業を見に行ってきました。

イタリアの小学校は8時から13時までで、給食はないところが多く、そのかわり10時の休憩時間にはおやつを食べてもいいと聞いて「いいな!」と子どもたち。学校は9月始まりの6月終わりで、子どもたちの夏休みは3ヶ月もあるのに、両親は1ヶ月しか休みがないので、おじいちゃんおばあちゃんと過ごす子どもたちが多いんだとか。海も山も近く自然が豊かなイタリアは、キャンプが人気で、楽しい夏休みが過ごせそうです。日本の世界遺産は25で多いな



と思っていたのに、イタリアには58もの世界遺産があって、古代ローマ帝国の遺跡や自然遺産

が国中に散らばっていることなどをクイズ形式でたくさん教わりました。

最後の質問の時間は、イタリアに興味を持った子どもたちからたくさんの質問ができました。「学校が終わった後には何をして過ごしているの?」「夕ご飯には何を食べるの?」「日本で食べたものでいちばん美味しかったのは何?」キアラさんは一つ一つ丁寧に答えていました。

「初めてのイタリア人?」って聞いたら、前にも来たよと、前国際交流員のアレッシオさんのことを覚えている子もいました。子どもたちは、習ったばかりの挨拶、チャオ!と、キアラさんに積極的に話しかけたり、ファンだというイタリアのサッカーチームのACミランのユニホームを着た子がいたり、子どもたちにとってイタリアはそんなに遠い国じゃないんだと思った楽しい授業でした。今は飛行機代がコロナ前の倍以上になって高いので、もう少し安くなったらイタリアに行きたいですね。(ゆご)



おとなりさん

今回のおとなりさんはベトナムのハイズ県出身のファン・ティトゥ・フーンさんです。故郷のハイズ県は大きな街で、以前は農業が盛んでしたが、最近では外国に出て働いている人が多いとのこと。フーンさんは、高校生までは学校の先生を目指していましたが、日本に興味を持ち、2012年に留学生として初来日しました。その後同じくベトナム出身の旦那さんと結婚し、出産のために帰郷しますが、2015年再度日本へ。子育てをしながら大学に通っていたという、とてもバイタリティあふれる素敵な女性です。

一宮市に来たのは2019年で、旦那さん、息子さんと住んでいます。一宮の印象について尋ねると、まわりの人はとても優しく、明るく挨拶してくれたり、市役所でも理解しやすい日本語で説明してくれたり、生活しやすい環境が整っているとのことでした。

子育てについては、息子のラム君は小学生で日本語を勉強中のため、学校での生活に心配なこともあるとのこと。ラム君が早く日本語を上達

できるようにと、毎週土曜日の午前中は日本語ひろばジュニア(※)に通い、日本語を学ぶサポートをしています。そんな中でもラム君が授業で初めて水泳をしたと話してくれたり、給食が美味しいと話してくれたり、嬉しい報告もあるようです。

フーンさんの得意なことは料理で、フォー、ムンチャー、春巻きなどを作り、ご家族からも美味しいと好評です。将来は飲食店をやってみたいと語ってくれました。いつかフーンさんの作るベトナム料理を食べられるかもしれませんね(^^)

※日本語指導が必要な外国人の児童・生徒を対象に、交流しながら日本語を教えるボランティア活動(いけちゃん)



iiainformation

世界をまなぼう!グローバルサマーセミナー

- ▼日時/8月9日(水曜日)午前10時～午後4時
- ▼場所/本庁舎14階1401大会議室
- ▼参加料/無料
- ▼申し込み/不要

※開催時間などの詳細は国際交流協会ウェブページをご確認ください。

★特別講演★

- ▽「アンちゃんと楽しく学ぼう、和製英語」
アメリカ・バージニア州出身
言語学者
アン・クレーシーニ 氏



★セミナー★

- ▽よくわかる・わからない韓国の食文化
- ▽ベトナムへようこそ!

★体験★

- ▽ニュージーランドのポイで遊ぼう!
- ▽給食から世界を知るワークショップ
- ▽世界を巡り隊～英語で遊ぼう～
- ▽クラフト体験
(作ったものはお持ち帰りいただけます)
 - ・紙皿ドリームキャッチャー
 - ・ニュージーランドアニマルペーパークラフト
 - ・落書きヴェネチアンマスク
- ▽スタンプラリー(景品あり) ほか

世界をあそぼう!フレンドシップフェスティバル2023

世界各国に関するステージパフォーマンス
やクラフト体験など、大人も子どもも楽しめる
国際交流フェスティバルを開催します!

- ▼日時/9月23日(土曜日)、24日(日曜日)
- ▼場所/イオンモール木曽川1階 ノースコート
- ※実施詳細は後日協会ホームページ等で公開します。

*iiaでは、協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。詳しくはiia事務局までお問い合わせください。



「タイ人の優しい眼差しの中で」

2023年1月帰国
一宮市在住 鷲津 久未さん

日本以外で日本人が多く住む街はどこだと思いませんか。その一つ、シラチャ。タイの首都バンコクから車で2時間、パタヤビーチからも近い人口30万人ほどのこの街には工業団地があって、日本人駐在員やその家族らで3000人以上の日本人が住んでいます。2019年、タイへの家族赴任が決まった当初、娘は2歳、息子は産まれたばかりで、言葉の壁、医療機関、子育ての助けがない不安を思っていました。

しかし、いざタイへ行ってみると、子どもを連れての赴任生活は思わぬ発見をもたらしてくれました。運転手さん、家事手伝いさんをはじめ、店に入っても子どもを見ると話しかけてくれ、店員さんが子供をあやしてくれたりお菓子をわけてくれるのです！言葉はわからないものの、笑顔で話しかけてくれるタイの人達は本当に好意的でした。また、学校が休みの時期には、タイでは親と一緒に店頭で店番をしている子どもの姿を見ることもありました。子供のタイ語教室への送迎は私であったり、タイ人の先生であったり、ルールがおおらかで、みんなで助け合う働き方がタイでは当たり前なのだと感じました。

日本にいと、外出時に我が子が誰かに迷惑をかけていないか、常に心配し気を配らなければなりません。しかし、タイの国ではどこでも温かい眼差しで見守ってくれました。また街中で日本語の看板や、メニューなど、日本語に触れる機会も多



く、カフェに入れば、抹茶や和菓子のメニューが並び、タイの人にとっても日本食は好まれています。日本食レストランは、ラーメン、焼肉、うどん、和食など多岐にわたり、またスーパーでは日本の食材が割高ですが簡単に購入できたりと、日本と変わらず子供たちに日本の味を食べさせることができました。医療面においても、日本語通訳さんがいる病院、日本人が常駐している病院もあり、とても安心できました。



案ずるより産むが易し。5年前の自分にかけてあげたい言葉です。子ども達と共にタイへ渡航したことで、多くの事を学べた気がします。



編集後記

3月に母が他界し、5月に6人目の孫が生まれた。お互いに見ることも会うこともないとはいえ遺伝子は受け継がれていくことだろう。母は戦争を体験し目撃した。経済成長を支え蓄音機からパソコン・携帯電話の流れも知っている。大災害や戦争でさえテレビで見ている。その遺伝子を繋ぐこの子の目に、未来は何を映してくれるのだろう。ヒトは遺伝子を時間旅行させるカプセル…、そんな言葉が脳裏をかすめる、未来が平和でありますように(you都市)

発行：一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市役所本庁舎9階 観光交流課内)

- 一宮市の国際交流協会の中心となって活躍いただく親善ボランティアを随時募集しております。
- みなさんも親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。
- *この「かけはし」も親善ボランティアにより取材・編集されています。
- ご意見・ご感想をお待ちしております。【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
- 当協会に関する情報はウェブサイトをご覧ください。【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/jia/】